



全労生・事務局長

久保 直幸

全労生の2017年

度活動計画のテーマ

は、昨年度に引き続き

「生産性運動の再構築

と社会的拡がりをもつ(生

産性運動の原点の確認

を)とした。ここ数年

来、政府を含めていろ

いろな場面で「生産性」

という用語が使われる
ことが多くなった。し

かしながら、生産性の

精神や生産性三原則が

語られることは非常に

少なく、もっぱら関心

は能率や効率をいかに

高めるか、ということ

にとどまっ

ているよう

に感じられ

る。

本年度の中央討論集

会は、年間活動テーマ

を踏まえて、生産性運

動の歴史の確認、およ

び、生産性運動の現状

と今後の課題に関する

講演をもとに、分散会

討議を行うこととして
いる。

分散会討議では、参

加者にとっての生産性

運動の現状認識と生産

性運動をいかに現場に

徹底していくか、さら

には今後の生産性運動

のあり方について意見

交換を行う予定であ

る。

個別の論点は次の通

りである。

生産性三原則の第一

原則である「雇用の維

持・拡大」の観点から

は、非正規雇用者が約

40%を占める現状にお

いて雇用の質を高める

必要があるが、良質な

雇用の具体的な姿とは

何か。

第二原則である「労

使の協力・協議」の観

点からは、労働組合の

組織率低下とともに労

使協議の機会が減少し

ていることはいかに対

処するか、また、イン

サイダー問題に代表さ

れるように労使協議の

対象とならないものが

増えている(労使協議

の質の低下)ことにい

かに対処するか。

第三原則の「成果の

公正分配」の観点から

は、長期的な労働分配

率の低下への対処と同

時に温暖化問題や貧困

等の社会の

持続可能性

など新たな

分配についていかに考

えるべきか。

生産性運動、生産性

三原則の原理・原則を

大事にしつつ、今日的

課題の解決と日本の将

来に向けた積極的な論

議を期待したい。

2017年度中央討論集会の開催